



はじめに



イラスト・横田珠実

みなさん、こんにちは。「ドクター山ちゃん」こと、山西潤一です。昨年4月から、小学校でプログラミングの学習が始まりました。皆さんは、プログラミングって何？ と思うかもしれません。

わたしたちにとって、人と話したり、読んだり書いたりすることは、とっても大事です。また、計算ができなくては買い物にも行けませんね。読み書きや計算は、わたしたちが社会生活を送るのに不可欠なリテラシーです。国語や算数は、そんな内容を学ぶ基本的な勉強です。では、プログラミングはどうでしょうか？ これから連載するにあたり、まずはそんな話からしたいと思います。

人に代わって判断

プログラミングは一言で言えば、コンピューターに仕事の手順を教えることです。びっくりするかもしれませんが、皆さんの家にもコンピューターがたくさんあります。例えば、部屋の冷暖房機は暑ければクーラーに、寒ければ暖房機にと自動的に快適な温度になるように温度管理をしてくれています。炊飯器は自動的に熱の加減を調節しておいしいご飯を炊い

快適な未来社会見すえ



リテラシー

もももとは読み書き能力のことでしたが、近年では、広く知識や活用能力を意味します。「コンピューターリテラシー」などといいます。

てくれます。まだまだ例を挙げればきりがありません。

最近では、ぶつかりそうになれば自動的にブレーキが働く車もできています。近い将来、よりレベルの高い自動運転の車もできると言います。無人のドローンが荷物を運んでくれる時代もやって来るかもしれません。これらはどれも、コンピューターが人に代わって判断し、さまざまな機械を動かしてくれているのです。

魔法の箱

暮らしや社会を便利にしてくれるコンピューターの多くは、皆さんが普段見ているものとは違います。外から姿形が見えないので、「魔法の箱」という言い方もします。

わたしたちの身の回りは、この見えないコンピューター、魔法の箱で支えられる時代になってきたのです。でも、この魔法の箱は魔法

使いが作ったものではありませんし、コンピューターが自分勝手に作り出したものでもありません。

「こんな物があればいいな」という皆さんのアイデアをコンピューターで実現しているのです。これからの未来社会では、このアイデアを生み出す創造力や問題解決能力が、とても必要になってきます。プログラミングは、そのための手段です。詳しい話は次回にするとして、これからプログラミングの連載を通して、皆さんと楽しく人に優しい社会を考えていきたいと思っています。

(山西潤一・富山大名譽教授、日本教育情報化振興会長)



富山大工学部卒、大阪大大学院修士(工学博士)。富山大人間発達科学部長、同大理事副学長などを務める。長年、ICT(情報通信技術)教育に携わり、昨年、ICT教育の推進を目指して活動する日本教育情報化振興会長に就任した。滑川市在住。